

62 今、新たに広がる？「教育協働セミナー」の意義・可能性?!

堂本 彰夫

(1) 「オンライン会議」(県内外の、二つの交流の輪?) が、その意義・可能性を広げてくれている?!

今般のコロナ禍(災害?)によって、俄かに脚光を浴びてきた「オンライン〇〇」「リモート〇〇」、あるいは「テレワーク」といった、新しいコミュニケーションの方法とか、仕事の仕方(会議・交流等)とかであるが、たとえそれが、ある意味仕方がなかったから?というような動機・きっかけであったとしても、意義・可能性は甚だ大きく、その威力・効力?については、素直に認めなければいけないであろう!以前の私であれば、このようなことは、ほとんど(まったく?)口にしなかったであろうが、そのことを思えば、何とも複雑な思いではある?!しかし、今は(これからは!)、このことは、声を大にして言わなければならない!

と言うのも、その確信?は、改めて、先日(6/27)の「教育協働セミナー」(13回目)にあるが、例の「ズーム」の有料版化への切り替えによって(グレードアップ!),参加者のやる気を削ぐ?数度の遮断もなく、スムーズに、そして有意義に進行していったからである(とは言え、「画面の共有化」とか、音声の問題とか、テクニカルな問題も、少々出現したが!)!

多少広げて言うと、今現在、この「セミナー」をきっかけとして、県外との交流、県内での交流(こちらの場合、沖縄県立玉城青少年の家との、「スカイプ」を活用した交流も含めて!),この二つの交流が、新たなネットワークの輪を創り、その成果を広げるものとして、大いに期待できるようになっているということであるが、やりようによっては、大きな発展も、決して夢ではなくなってきているということである?!その一つが、県立玉城青少年の家のみなさんとのコラボによる、次回(第14回目)以降のプログラムであるということでもある?!

まだまだ、その未来?の明るさについては、何とも言えない部分もあるが(一つだけ、残念な要素もある?)、私の、最後のチャレンジ?として、一つの形が見え始めているのではないかということであり、そして、方途としては、それしかない?あるいは、それが、曲がりなりにも私にでも出来るということではあるが、結果として、現在(これから?)の私を、大いに救ってくれている?そういうことでもあるわけである!

ただし、それを進めていく知識・技術(パソコン操作)は、まったく不十分であり、自分でも情けないくらいである(その後、新たな弱さも露見している!)!だが、それは、ある意味どうしようもないことであり、誰かの手助けがなければ、これ以上はうまくいかない?そうも、思っている次第ではあるが、例の若者達も含めて、誰もが、忙しい日々を送っているのである!だから、泣き言は言えない?!そんなことを、一方では、思っている私ではあるのである(本当に、メカ?は難しい!昭和世代の宿命か?それとも、覚悟のなさか?)?!

(2) 改めて、何を大事にしていけばよいのか?!

まあ、それはともかく、今後、このセミナーにおいて、何を大事にしていけばよいのか?それは、改めて、「学校教育と社会教育の協働の意義・メリットの発見とその広がりづくり」(実感化)ということであろう?!このことは、前回のセミナーで意を強くしたものでもあるが(ある子どもの、「放課後子ども教室」との出会いのエピソードから!),そうしたことが、現実(大人?教師?)を変える大きな力となるということからである!実際、それがないと、なかなか大きな(必要な?)変革?は望めない?そのことは、これまで、嫌と言うほど経験してきた?!

要は、そこに、理屈抜きの説得力(納得)がないと、なかなか事態は進展しないということである!ましてや、現今の状況(コロナ対策や子ども達の「学習時間」の確保等)では、おそらく?多くの人は、「(「教育協働」なんて?)それどころではない!」と思っていることであろう?!何故なら、一応、現場(最前線?)の、当事者のみなさん達は、それぞれ、眼前の課題(対策)に関わって、精一杯の仕事、活動をされているからである?!余談ではあるが、そうした現実?は、今般のコロナ禍対応の諸実態?を見れば、一目瞭然である?!

したがって、これからは、そうした話題(実感事例?)に、改めて目を向け、たとえ小さな動き(成果?)であっても、学校教育と社会教育の協働がもたらす意義やメリット(例)を、地道に共有出来ればと考えている次第なのである!例えば、前回のセミナーでも出た、コロナ禍対応のための、学校教育の補完?場所としての「社会教育施設(公民館)の活用」(分散学習の場→隣接していれば、さらに有望?である(あった!)),あるいは、(新築・改築時における)建物の機能の分有・共有、いわゆる「コミュニティルーム」の共用だけでなく、図書室、プレイルーム、その他の特別教室等の位置づけ、活用方法である!

それらは、以前叫ばれた「学校のインテリジェント化」と軌を一にするものでもあるが、近年では、例の「安全・安心」、「防災・減災」(→地域づくり)のためということにもなる!したがって、そこには、単なる応急的な・便宜的な対応、やらざるを得ないから仕方なくということではなく、抜本的な意識の変革、従来の慣行の打破等が必要不可欠となるわけである!

そこで、改めての課題は、繰り返し述べるように、「やれるのに、やらない?」「やりたいのに、やれない?」、そういうことであると思われるが、その現実をいかに変えるかである!そこには、様々な原因・背景があるの

であろうが、今回の「コロナ禍対応」においても、大いに？見えたように、全体を俯瞰した、必要なネットワークの不全（不在？）であり、そういうものを生み出し、動かしてく力、人の弱さであろう？！まさに「教育協働」においても、やはり、そうした必要なネットワークが出来ていない！あるのに上手く活用されていない？！

これは、いわゆる「コーディネート or アジャスト？」を行う組織・機関の脆弱さ（不在？）ということであるが、その有効な実現が、この「教育協働」においても、必要不可欠なのである！そして、実は、その最大のネック（課題）は、そのための人材（コーディネーター or アジャスター）がいない、十分ではない！そういうことのようにも思える？！

もちろん、今回のコロナ禍のような、まさに想像を絶するような事態においては、そうしたコーディネーター or アジャスターが予期（配置）されていなかった？そういうことであろうが、その原因（背景？）は、ほとんどが、結果的にではあるが、一部？それを阻んでいる人（組織）がいる（ある）？言い換えれば、その分野での既得権益や権威、自分達の領分、プライド？に汲々としているということであるようにも思える？！

誰でもいい、どこでもいい！「思い（課題意識？）」を共有し、それを実現させる「実行力」のあるところ（組織・事業体）、そして「人」が貴重（必要）なのである！本来なら？、そうしたことを仕事（公務・業務）としてやらなければいけないと思われるのだが、それも、なかなか現実には厳しい？！予算や人手不足は、ある意味恒常的でさえあるが、それも影響して、本当に現場のみなさんは大変なのである（一応、みなさんは、精一杯の努力はなされてはいる？今般の保健所のみなさんのように？）？！

ちなみに、今回のコロナ禍対応においては、懸念や限界も、もちろんある！徐々に、そうした必要性がなくなり、再び元の、どこかに集まって仕事や交流を行うという「オールド？ノーマル」に、単純に逆戻りするということであるが、たとえそうであったとしても、頼りにされる（人がいる）ところ（機能？）が必要であるということには変わりはない！そういう意味では、そう簡単に、件の「ニューノーマル（新しい日常）」を叫んではいけないとも思うが、「地域コーディネーター」（「社会教育士」？）の養成・活用は、その意味で重要な要素となる？！

そんな中、現在、新しい「社会教育」の形をどう実現すればいいのかといったことも、一方で議論されている（日本青年館発行の『（大判）社会教育』誌上）！ある意味「古くて新しい」、したがって「普遍的な？」課題意識・テーマとも言えるが（キーワードやスローガンは、時代時代によって変わっているようでもあるが）、「社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」（2018年中教審答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」）ということである！

とは言え、明らかにこれは、社会教育（行政）だけの課題ではない？！そういうことは、みんな？分かっているのである？！ただ、その打開の方途やきっかけが掴めないだけなのである？！だから、課題は、それを踏まえて、いかにアクションを取るかなのである！そのことも、今般のコロナ禍対応の事例から、よく分かることである？！

(3) もう一つ、個人的には楽しい（救われる！）？H教育大学大学院生（社会人）との交流？！

最後になるが、「教育協働セミナー」自体は、何度も言ってはいるが、私の大学時代の教え子？のS君（現在は、岡山県のK医療福祉大学教授）、彼の配慮（情け？思い遣り？）によってスタートしたものであるが、前任のH教育大学での、彼の指導学生（社会人）との交流（もちろん一部であるが？）は、私にとっては、思いの外（本当である！）、楽しい、否、救われる？ものともなっている？！一種の妙味？とさえ言える？！

元教育長や学校長といった経歴の持ち主達であるが、その経歴（実績）も含めて、いい意味での理解者、協力者といった塩梅である？！しかも、みなさん、とても元気である（年齢を感じさせない？）！そして、前向きである（それはそうであろう！そうでなければ、大学院には行かない、行けない？）！

いずれにしても、全国的には、こうした意識（レベル）の高い人が、いることはいるのだなあ、一方で思いつつ（ある意味驚き？）、こんな理解者・関係者が、身近に、もっと多くいればなあ（どこかの県のことを思いながら？）、交流している次第でもあるが（ただ、このつぶやき？も、多分？私の、一方的で、身勝手な評価と言われるかもしれないが？逆に、非難されるかも??）、はっきり言って、ごくごく一部とは言え、どうしてそのような人達（理解者・関係者）がいるのか？実は、その理由は分かっているのだが（多分？）、一方では、そういう人達（考え方）を必要とするような、客観的な状況が、今歴然としてある？そういうようなことでもあろう？！

とは言え、やはり他の多くの人は、それぞれ忙しい毎を送りながら、それぞれが必要だと思うことを精一杯やられているのではあろう？！そのように思う（当時の、私の職場もそうであった！）！ただ、残念ながら、その忙しさや必要性の中身、そして、振る舞い方（主義・主張？）が違うということであるが、そこでは、往々にして、本質的なことではない確執や利害争いが繰り広げられている？！ある意味、何とも悔しい（虚しい？）現実がそこにはある（みんな、自分が可愛いのである？）？！

しかし、やりようによっては、あるいは思わぬチャンスというものは、当然ある！これも、ある人達にとっては、「自分可愛さ？」の一つとも言えるのかもしれないが、要は、そこで、何が生まれようとしているのか？何故、それが、意味があるのか？その共通理解（納得？）が、成否（正邪？）の分かれ道であろう？！だが、それは、なかなか見極めることは難しい？！だから、変わらないのでもある？！だけど、これからは分からない？！